



第2号

社団法人 上田高等学校同窓会 昭和41年5月15日発行

印刷所 信州民報

成長する同窓会館

昨年度は赤字なし

同窓会館の最大の悩みは維持管理にあるが、充足してよりや一年半を迎えて昨年度の決算は、どうやら赤字を免がれることができ、今年度はわずかながら施設の充実に一歩を進める見通しが立つて会館管理に明るい希望が持てるようになった。ひとえに会員の努力の賜である。同窓会の方へ

やつと赤字を克服

昭和四十年年度には、会館建設の未払金が約四十万円もあり、そのうえ諸般の設備（別項記載）をしなため、収支決算は赤字を覚悟しなければならなかった。ところが維持会員が三百五十九人にも増加し、その会費が三十一万一千五百円となった。そこへ会館使用の分担金が四十一万九千円となり、最大の悩みであった力ネの面が、別項決算書のように危うく赤字から脱することができた。

多忙な四十一年度

そこで今年度の事業は、いままでもやりにくくも力ネがなすべく、なかつた設備の充実に向けられた第一は大講堂の照明施設の増強で

| 昭和40年度決算概要 | | 41年度予算 | |
|------------|------------|------------|--|
| 収入 | 1,757,648円 | 1,652,122円 | |
| 内訳 | | | |
| 財産収入 | 46,992 | 33,350 | |
| 入金 | 834,000 | 789,000 | |
| 維持会費 | 301,500 | 300,000 | |
| 会館維持負担金 | 424,740 | 400,000 | |
| 雑収入 | 82,450 | 60,000 | |
| 繰越金 | 67,966 | 69,772 | |
| 歳出 | 1,687,876円 | 1,652,122円 | |
| 第一事務費 | 1,011,032 | 1,219,122 | |
| 給費 | 286,175 | 335,000 | |
| 備品費 | 189,060 | 150,000 | |
| 光熱通信他 | 384,834 | 515,000 | |
| 会議費 | 115,203 | 120,000 | |
| 雑費 | 35,760 | 83,000 | |
| 予備費 | 0 | 6,122 | |
| 第二事業費 | 676,844 | 433,000 | |
| 会報発行 | 20,150 | 50,000 | |
| 奨学金 | 200,000 | 200,000 | |
| 同窓会賞他 | 36,840 | 55,000 | |
| 会館建設補助 | 402,954 | 60,000 | |
| 転退職職員記念品他 | 16,900 | 38,000 | |
| 運動部補助 | 0 | 30,000 | |
| 収支差引残高 | 69,772円 | | |

会館充実のために

維持会員になつて下さい

四十年年度の同窓会館維持管理は、そのために、同窓会では会館維持のみに、ようやく赤字だけを維持会員の多数獲得に力を入れ、おぼ免かれることができたが、実際に臨んで会員と呼びかけるものは、いつも薄氷のかけであり、昨年度までに三百五十九人の獲得に成功した。しかし、これだけではな行な

会館使用回数

会館がようやくややく世間に知られると共に、四十年度はにわか利用度が増え、一般の利用は年間二百三十七回の多数に上った。これは、会館の位置が市の中央で交通に便利であること、会館が新しく清潔であること、他と比較して使用料が安いことなどが一般市民に歓迎される理由らう。

四十年年度使用回数(分コ内は使用届を出した母校の使用回数)

| | | |
|-----|-----|-------|
| 会議室 | 六四回 | (三〇回) |
| 食堂 | 五五回 | (七三回) |
| 和室 | 三三回 | (七七回) |
| 会議室 | 八五回 | (三八回) |

春季同窓会総会開催通知

昭和四十一年度春季同窓会総会を左記により開催しますの、御出席を賜り度御案内申上す。

一、日時 昭和四十一年五月二十八日(土)午後一時

一、会場 上田高等学校同窓会館

一、議事

第一号議案 昭和四十一年度事業報告及び収支決算承認の件

第二号議案 昭和四十一年度事業計画並びに収支予算承認の件

第三号議案 同窓会奨学資金の決算承認の件

一、映画 ユワカワの世界・鷲と子供達

一、演題 日本歴史の精神

一、講演会 日本歴史の精神 講師 小林健三氏

一、懇親会 総会終了後、午後四時半頃より春季叙叙を受けられた小泉清見、水野州蔵両氏の祝賀会を兼ねて懇親会(会費三百円当日持参)を開催致します。御出席の方は五月二十六日までに上田市大手町 同窓会館事務局(電話上田03146)宛御一報下さ。

社団法人・上田高等学校同窓会 第五回 関東支部大会開催通知

一、日時 昭和四十一年五月二十四日(火)午後六時(受付午後五時開催)

(受付午後五時開催)

一、会場 東京都千代田区平河町一〇六 都市センターホテル(桃町中学校となり)

一、道順 都電・都バス(麴町四丁目下車徒歩三分) 国電(市ヶ谷又は四谷駅下車徒歩十分) 地下鉄(赤坂見付下車徒歩十分)

一、会費 一金壹千円

40年度決算と41年度予算

春の総会は五月二十八日

四月二十五日午後一時より同窓会館で、昭和四十一年度第一回理事会が東京より勝俣検閲顧問を迎え開催され、春季総会を五月二十八日(土)午後一時より開催することを決定し、昭和四十一年度決算、同四十二年度予算(いずれも一面記載)を審議した。

昭和四十一年度の事業報告は左記の通りである。

一、社団法人上田高等学校同窓会昭和四十一年度の第一回臨時総会を五月三十日開催し、秋期総会を十一月二日開催した。春季大会には映画「ギヤチンカン」を上映し、勝俣検、布原信員両氏の勲章授賞の祝賀会を開いた。秋期総会には映画「挑戦、日紡バレーチーム」を上映し「物産安売店」種別について「講師経済企画庁物産対策課長丸山英人氏(三十六回卒)の講演会を行った。

二、秋期総会に於いて定款第二、四条及び第八、九条中にある「北信毎日新聞」の字句を「信州民報」に改めた。

三、昭和四十年五月十四日リッカード・シン・会館に於いて開催された第四回関東支部大会に理事長柳秋他三名、出席する共に朗しい援助した。

五、奨学資金として坂口正治他十一名に月額一五〇〇円、十二月分、他の二名に対しては十ヶ月、総額三万二千元を貸出した。

六、昭和四十一年三月八日第六回同窓会式において(定時制)宮入政宏、金島卓二に同窓会費を授与した。

七、会報を一回発行し、維持会員に対しては上田高等学校新聞を発行の都度四回送付した。

八、同窓会館前にブロックの塀及び会館東側に物置きを作った。

私の入学は昭和二十六年の春、上田松尾高校と呼ばれていたところである。この奨学金の制度はおそらく十八年にできたのではないかと推測する。私の三年の間、月一、〇〇〇円の奨学金をお借りした。このころは授業料は四〇〇〇円であったから、参考書を購入する余裕もなかった。残りこの本を買って来たが母に報告してはいた記憶がある。奨学金をお借りできたのは二に先生方のお計らいであったが、この金のありがたさを身に感じて入ったことば、今も脳裡にくっきりと刻みつけられている。

時は、十八年の初夏。父は選挙に敗れ、失職して帰郷した。大

九、会館へマイク設備を八万四千円で設置した。

昭和四十一年度の決算は別表の通りで、降村、山浦監事に記帳、その他正確に会計がなされていると監査結果が報告され、承認された。

★昭和四十一年度事業計画及び予算案は左記の通りである。

一、社団法人上田高等学校同窓会昭和四十一年度の第一回臨時総会を昭和四十一年五月二十八日に開催する他秋季に総会を開催し、理事会を四回以上開催する。

二、奨学資金に関する事項
長野県上田高等学校の生徒に奨学資金の交付困難な者に対して一人毎月一五〇〇円貸与する。

長野県上田高等学校を卒業する生徒中(人物優秀、成績抜群なる者並びに生徒会活動、クラブ活動に貢献し)学校長の推せん者に対して同窓会費を授与する。

四、転退職、職員慰労に関する事項
長野県上田高等学校職員が転退職に際して記念品を贈呈する。

五、運動部補助に関する事項
長野県上田高等学校運動部中全学生会等に出席する者があつた場合に出席費の一部として補助する。

六、同窓会報を発行する。

七、同窓会館を維持するために維持会員を募集する。

八、同窓会館の補修と環境整備をする。

同窓会の事業である奨学資金として昭和四十一年度も同窓会より二十万円の支出があり、十二名に対して返還金などを合わせて三万一千円の給与が行なわれた。四十一年度の決算は左記の通りである。

収入合計 三七、五五〇円
内訳
前年度繰越金六六、三五一円
同窓会支出金〇〇、〇〇〇円
利子 一、八九九円
返還金 五九、三〇〇円
支出合計 一三二、〇〇〇円
内訳
内訳貸出金 一三二、〇〇〇円
差引残高 九六、五五〇円
(翌年度へ繰越す)

四十二年度も同窓会より二十万円支出され、繰越金とあわせて貸与する予定。

思えば、あのころは戦争の傷あともあちこちに残っていて、大部分の生徒は日々通学を続け、修学旅行にすらバスで行く者が多かった。身なりを構わず、質実剛健の気風になじみ、勉学一途に毎日を戦争のように精進し励んだものである。受験勉強にせよ、寝食を忘れて励んだあのころの生活は、若人としてあつたであつた、いま確信を以てしている。

校門を入り、伝統と校風にしたがり、立派な先生方のご薫陶を受けたことを至上の誇りとし、仕合せな男だとなつくと思うのである。母校を去って十年、改めて奨学金の恩を感じている次第である。(丸子実業高校教師)

奨学金に思う
六川 信

父母を助け野良に汗した苦労も今はむしろ懐かしい。「日曜日に働きまると、次の日、眠いよ、ですネ。」と、担任の先生に父に語ったという。

のどがかわいているときの水はうまい。奨学金がどれほど私の学業の励みになったか知れない

十三人に奨学金貸与

同窓会の事業である奨学資金として昭和四十一年度も同窓会より二十万円の支出があり、十二名に対して返還金などを合わせて三万一千円の給与が行なわれた。四十一年度の決算は左記の通りである。

会員の新书推荐

- 著者 上田付近の遺跡と伝承
- 著者 箱山貴太郎(二十四回)
- 発行所 上田小泉資料刊行会
- 著者 性神と石仏
- 著者 三石武吉三郎(三十五回)
- 発行所 上田小泉資料刊行会
- 著者 管理図の作り方と使い方
- 著者 小山正徳(二十六回)

発行所 上田小泉資料刊行会
著者 性神と石仏
著者 三石武吉三郎(三十五回)
発行所 上田小泉資料刊行会
著者 管理図の作り方と使い方
著者 小山正徳(二十六回)

銘酒 龜 齡 醸 造 元

株式会社 岡崎酒店

社長 岡崎 未二 (2回)

上田市柳町
TEL 上田②-0149

株式会社 長野プロパンガス

社 長 成 沢 忠 兵 衛 (27回)

専務取締役 鈴木 健吉 (29回)

常務取締役 山寺 豊一 (31回)

常務取締役 伊藤 仁 (7回)

上田市国分 TEL(代)②5581

楽しい同窓会のつどい

第五回関東支部大会ごあいさつ

こんど、別記ご案内の如く第五回関東支部大会を開催することになりました。若き日の松尾城頭に学んだ青春の目をしのび、先輩後輩一堂に相つと、声高らかに母校の繁栄を祝願するごときも、関東地区在住の同窓生各位の親睦をより強く温めたいと願っている次第でございます。本関東支部会が結成され、第一回大会が去る昭和三十三年四月に開催されて以来、八年になります。各期卒業生の同期生の会合は、それ以前からそれぞれ開催され、おりましたが歴史ある母校の年輪から考えても、関東地区にその各期同期生の会合を、打って一丸とした関東支部会の結成を望むことは当然のことでもあり、むしろ三十三年の結成は遅きに失った感もなきでもありませんでした。それ故、今日まで、現在の本支部会幹事一同は、より盛大により親しみの多い関東支部会とすべく、切々努力をつくしている次第です。何卒幹事の意をくんで大会当日には、ふるって出席のほろほろお待ち申します。

上田高校同窓会関東支部会支部長 清水菊三外幹事一同
関東地区在住同窓生各位

退信:

▼本会は毎年春に総会をひらくことになっております。「新名簿」を完成する予定ですが、本会の事務所は支部長宅におく、今回の退信は、出欠のいかことになっておりますので、本会にんにかかわらず、必ずお送り下さつておいてのお願いは左記におねがい申し上げます。

▼本会の幹事を期から、名か三名で推薦をねがっています。

「東京都渋谷区宮ヶ谷二の四一」(総会のために、また幹事を推薦されておられない各期におねがい申し上げています)が、未推薦の期は今日大会当日でも結構です。から

清水 菊三殿

〒151 四三六(七) 九〇〇番
期は今日大会当日でも結構です。から

卒業十周年記念 54回同期生大会

第五十四回同期生は昭和三十一年に松尾高校(当時)を卒業して本年三月に丁度十年になります。そこで恩師をまじえ、一堂に集うのも一興と卒業十周年祝賀会を計画しました。それは懐しの悪友共との再会、またかつての仲間が、大学進学、さらに就職で住所が変わり、消息不明になっているので名簿作製をなしそれを明らかにするだけでも意義があると考えたからです。

去る三月二十七日(日)竹内敏太郎先生のお取り計いにより、母校同窓会館において、恩師十名

最後恩師を囲み記念撮影、茂

昨年三月、私は上田高校を卒業した。その卒業式で、はからずも同窓会から「成績優秀……」という表彰を受けた。身に余る光栄なことである。しかるにそれから約一週間後の東大合格者の発表に私の名前がなかった。そして自動的に浪人ということになったのである。

予備校礼賛

飯島 正之

その時私は考えた。落第した原因は何だろうか。今後一年間いかにして上手(じょうず)に浪人したらいののだろうか。一原因は明白であった。勉強しなかったからである。そこで、私を表彰して下さった同窓会の人々へ恩返りするたためにも、人並みに勉強することにした。また私の悪いくせである

と思い出すことができる。あれから一年間、とまかく人並みに勉強した。授業もある程度まじめに受けたし、適度の予習もした。世の中の親達が「灰色の浪人生活」と言っているが、ホク達の場合は決して灰色ではなかった。

同期生七十八名の出席をもって、盛大に第一回を開催しました。定刻一時には、近在はもとより、東京をはじめ関西方面からも、ぞくぞく来場、ここかしこ握手談笑が続く。発起人を代表して佐藤圭司のあいさつ、恩師代表宮坂仁吾先生のあいさつに続き、小林俊直先生の音頭で、乾杯、各恩師の「モラス女懷旧談や近況報告に、昔ながらの野次も飛び出す始末、独身者には嫁を世話してやるとの恩情ある、ありがたいお話に会場に達した。林幸四郎先生の狂歌おけさで踊り、兎東武雄先生の笛声に合せて、校歌、応援歌をとなすなど大騒ぎ。

珍!同級会

小宮山羅一記

住定次先生の音頭、方才を唱し五年後の再会を約して定刻を過ぎること一時間余、三々五々散会、全く楽しい一日でした。

停年退職組を慰めたり、敬励したりするという変わった同級会、二十七回卒業生のなかには中、小高校長が多く、それが今年ばかりで、これを大いに慰めたり敬励したりしようというわけ。十五日午後一時から上田田温泉清風閣別館、主催者は柳沢文秋、鈴木俊、成沢忠兵衛、志摩修吾の諸氏。

たびたび映画もみだし、山登りさえた。ただ勉強するくせを忘れては大学合格は無理だというだけのことである。

振り返ってみると浪人という生活も捨てがたい味がある。予備校の友達、置かれた立場が全く同じために非常に親しい。大学の門がますます浪人を閉め出す傾向の今日のごころであるが、私が予備校に通ったことを少しも悔いしていない。否むしろ人生経験の深まったことを誇りにしているのである。

それと同時に、時計を下さった同窓会の方々にも紙上で厚く御礼を申し上げたい。(筆者は今春、東大理科三類に合格した)

NISSEI

日精の
プラスチック成形機



日精樹脂工業株式会社

取締役社長 青木 固 (30回)
常務取締役 室賀千秋 (36回)

信州名産

みずび飽

菓物のお菓子



社長 飯島春三 (29回)

長野県上田市松尾町
TEL. 上田 121-0332-4

店 飯島

小泉清見先生の頌徳

小泉清見先生は明治十六年の生
で、明治三十五年上田中学校第
回の卒業、大正三年四月から昭
和八年三月まで二十九年の長い
、子弟後輩の育成に精魂を傾注
千に余る有為の人材を社会に送
出した。

上田中学を退職後は村教育委員
兼任、また泉田村誌の編さん刊
に尽力し、泉田博物館の建設に
心血を注いで指導をし、先生の
功績品をはじめ知人にも依頼して
採れたものを陳列、現在もなお研
究に精進している。

昨年来、門弟が相寄り先生の人
格を敬慕し、報恩のために小泉清
見先生頌徳会を結成して左記事業
を達成することになった。一口千
円以上で振替長野口座二二三。
一、胸像を贈呈する。

小林三郎先生顯作
(上小彫塑研究会長)

土屋竹雨氏作 箕井南村氏揮毫
(きとう) による時碑「上田城跡」
址」の建除禱式式を九月十
七日開採訪方者百五十名を列席
の下で、一の丸櫓構内において
盛大に執行された。除禱は作者
の命懸けで、そのよきよきなれ
ば村流日本吟詠会長坂本通氏の
吟詠もあり盛況であった。
この時、昭和十一年芸術院会員
成土屋竹雨氏の門人の箕井南
村氏(当時上田中学漢文科教

一、泉田博物館整備及び老後の研
究費として相当額を贈呈する
この事業の役員
会長 信州大学繊維学部前部長
小泉清見
副会長 上田高等学校長 清水
次郎
同 上田高校同窓会理事長
柳沢文秋
同 上田市長 小山一平
同 川西村長 多田忠正
ほか発起人八百余名

四月二十九日天皇誕生日の叙勲
に際して、同窓会関係では西岡
会長水野副会、相談役小泉清見同
氏に勲五等瑞宝章が授与された。
水野副会氏(市会議員として十
一年、市長として八ヶ年間、消防
団長を十一年つとめる等、地方自

治の発展に奮闘した他、城南高等
学校設立者として功績が多大であ
った。また小泉清見先生は別項の
通り。
総会当日の講演
者と映画の横顔

詩碑「上田城跡」
還藤恭介 細川武敏 西沢弥八
小林隆男 平野茂 土屋正晴
日田隆夫 水野海海 宮崎正吉
清水正行 (順不同)
時碑の原文

現代語訳 細川武敏氏による
孤城に廻りて眞田父子
関東勢をとらひしぐ
城址は荒れ草むせど
去にし英雄偲ぶごと
山勢高く 威容あり
(還藤記廿回卒)

お願い (事務局)

同窓会報、学校新聞、各種会合
の案内及び連絡事項などを、五十
回卒業以上の全会員に発送したと
ころ、住所変更あるいは不明など
のため、返送されるものが非常に
多くありました。もし同級生ある
ご報告下さい。

いば知人の方々のうち、これらの
書類が手もとに届いていない方
がありましたら、現在の正確な住
所を事務局までお知らせ下さいま
すよう、お願い致します。
各期会合ならびに各支部の催し
を会報にのせたいので事務局まで
ご報告下さい。

小林 逸雲 (八回卒)
市村 五郎 (十三回卒)
小宮山亮三郎 (〃)
塩入喜真多 (〃)
甲田 英夫 (十七回卒)
小島雄二郎 (三十九回卒)

物故者
おわび 同窓会報前号
の物故者氏名の中、荻原亮太郎、
瀧沢貞(四十九回)の名を掲げて
おきましたところ、萩原氏より目
下、元気で川崎重工業勤務中との
便りをいただき、また瀧沢貞氏は
木曾山林高校に勤務中とのことか
家人から電話がありましたので訂
正をいたします。この間違いは、
ある人の故意と思われる通知によ
ったもので、十分の調査をしなかつた事務局の落ちでした。おわ
びを致します。

信濃絹糸紡績株式会社
社長 金子徳夫 (25回)
副社長 金子八郎 (39回)
小 泉 郡 丸 子 町
TEL 02684-29・30

銘酒 御園竹
株式会社 二葉屋酒店
社長 馬場 力 (49回)
上田駅前 TEL 020082

合 名 社 三井酒店
代表社員 三井 祐三 (29回)
上 田 市 愛 宕 町
TEL 上田 0245

四季折々の行楽に別所温泉へ
柏 屋 別 荘
TEL (塩田) 12・100
社 長 斎 藤 房 雄 (16回卒)
副 社 長 斎 藤 三 雄 (46回卒)

四季折々の行楽に別所温泉へ
柏 屋 別 荘
TEL (塩田) 12・100
社 長 斎 藤 房 雄 (16回卒)
副 社 長 斎 藤 三 雄 (46回卒)